

優れた録音のほとんどは、コンデンサー型のマイクロホンが使われています。それなら再生もコンデンサー型が……

なぜ、優秀録音のほとんどにコンデンサー型のマイクが使われているかといえば、第1に振動板が軽いという事実です。空気の振動を電気信号に変換するとき、振動板の質量が大きいほど不利な事はいうまでもありません。したがって、音楽の微妙なニュアンスまでも大切に録音しようとすれば、ダイナミック型よりコンデンサー型のマイク、というわけです。それなら、コンデンサーマイクで録った音楽をコンデンサー型のスピーカーで聴いたら、もっとも正確で美しい再現が可能なのではないか……。これが私共の発想の原点であり、また自信を持ってコンデンサー型のシステムをお薦めする最大の理由です。

音楽の微妙なニュアンスを見事に再現。しかも歪みがなく、ナチュラルな音質ですから、長時間聴いても疲れません。

コンデンサー型スピーカーの基本構造は、とてもシンプル。厚さわずか数ミクロン(1ミクロン=1/1000mm)という高分子フィルム(振動体)の両側に電極を置き、バイアス電圧をかけて静電界を生じさせます。そこへ音楽信号を流すと、その電位差により、フィルムが電極に引き寄せられたり反発しあったりして、発音するわけです。このようにコンデンサー型は、ダイナミック型と比較して、極めて軽い振動体を使える事と、さらに磁石もコイルも使用しないために磁気歪みが発生しないという、2つの大きなメリットを持っています。その結果、微細な音の再現性に優れ、演奏会場の雰囲気や余韻の消え方といった音楽の微妙なニュアンスまでも見事に表出します。そして、歪みが極めて少ないために聴き疲れせず、長時間の観賞を可能にしています。

したがって、音楽のプロフェッショナルを始め、多くの音楽学校・大学、図書館などでご使用いただいております。

スタックスのコンデンサー型イヤースピーカー(ヘッドホン)は、原理的優位性に加えて、なによりも音楽家の心を良く伝えるシステムとして、ヘッドパッド・イヤパッドの材質や側圧についても長い経験から十分な検討がなされ、専門家の方々にも初めて使われる方にも安心してお使いいただけるよう設計、製造されています。従来より放送局のモニター用、レコード会社の品質検査等に広く採用されてまいりましたが、特に最近では、音楽大学・一般大学の音楽観賞室や図書館・教育システムへの導入、また各地の公共図書館においてレコードライブラリー聴取用として、多くの納入実績を誇っております。この機会に、高品質なコンデンサー型イヤースピーカーシステムの導入を、ぜひご検討いただきたいと思います。

コンデンサー型だから、あくまで高品位、なによりもナチュラル……
音楽鑑賞室や視聴覚教育システムへの導入を、ぜひご検討ください。